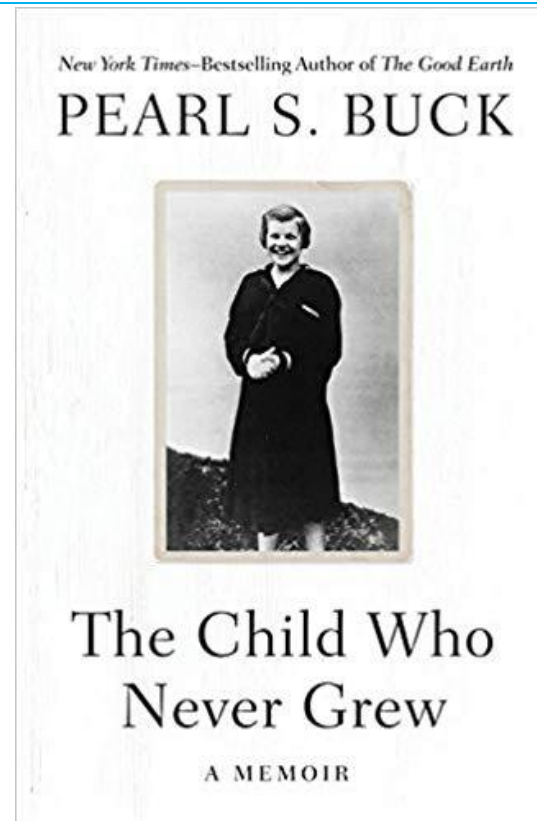


パール・バックと長崎・雲仙
そして
知的障害児 (PKU) キャロル



社会福祉法人ほかにわ共和国
理事長 志賀俊紀





ほかにお共和国と隣接する権田公園からの眺望





社会福祉法人ほかにわ共和国本部の事業全景



社会福祉法人ほかにわ共和国

共汗共育 (きょうかんきょういく)

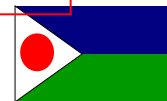
水流穴満 (みずあなにみちてながる)

終生拡大家族構想

至誠通天 (しせいつうてん)

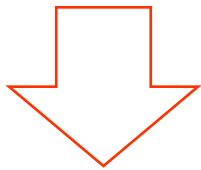


老若男女が ⇨ ほかにわの庭で ⇨ 文化を享受できる

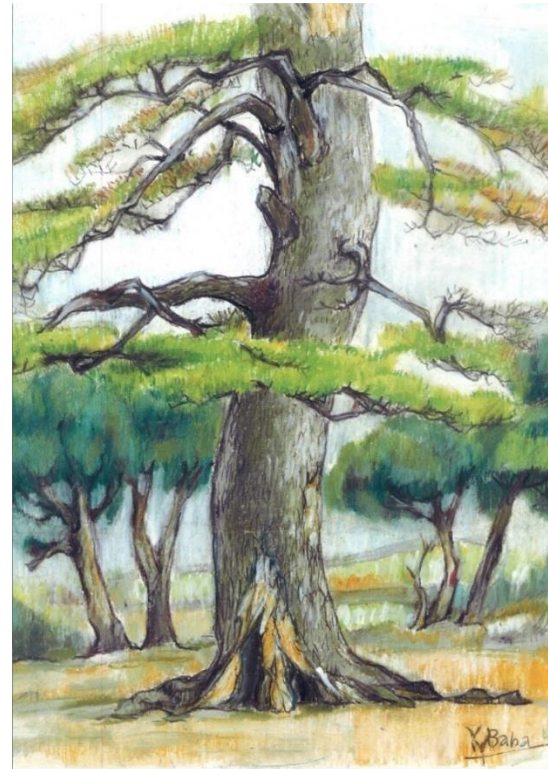


社会福祉法人ほかにわ共和国

- ① 社会参加の松
- ② 社会自立の松
- ③ 能力開発の松
- ④ 啓蒙活動の松



- ⑤ 四本の松を枯らさない
- ⑥ 地域を耕し、地域をつる
- ⑦ 本物を目指す本物の文化
- ⑧ 「うからやから」の家族社会



知的障害者 → 地域社会の中で → それなりに働ける



パール・S・バックの家族



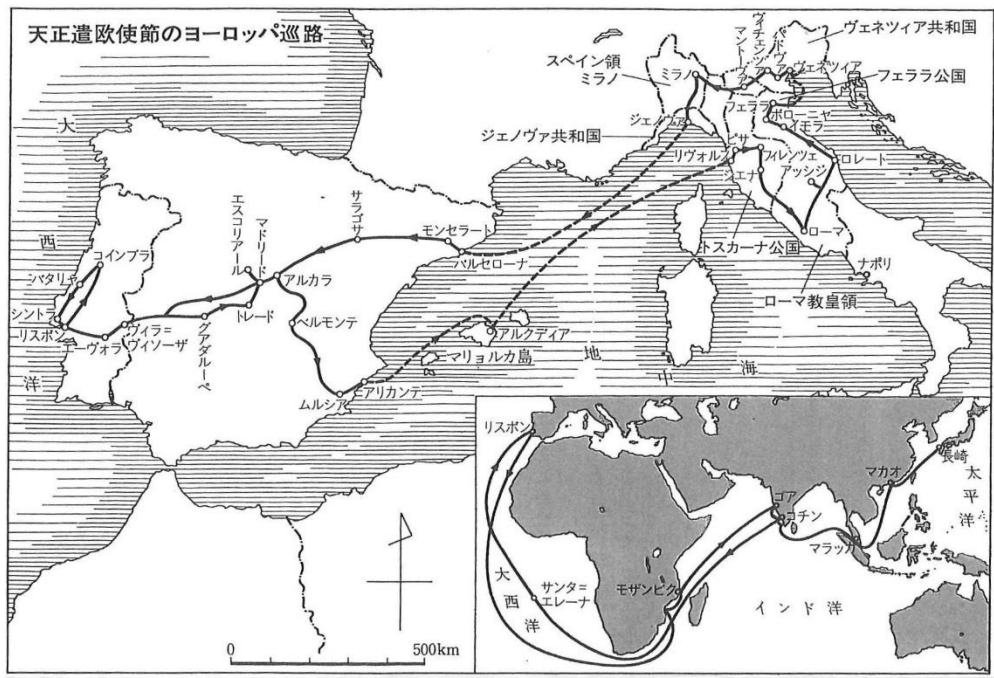
パール・バックと長崎・雲仙



上海長崎航路長崎丸



興福寺の起源はパール・たちの住んでいた都に由縁がある



1582-1590天正遣欧少年使節時代の海図



明治時代から避暑地の雲仙温泉

パール・バックと長崎・雲仙



パール・バック(1892-1973)



活水学院の正面玄関および諫早鎮西ウエスレヤン大学



絶賛した千々石海岸



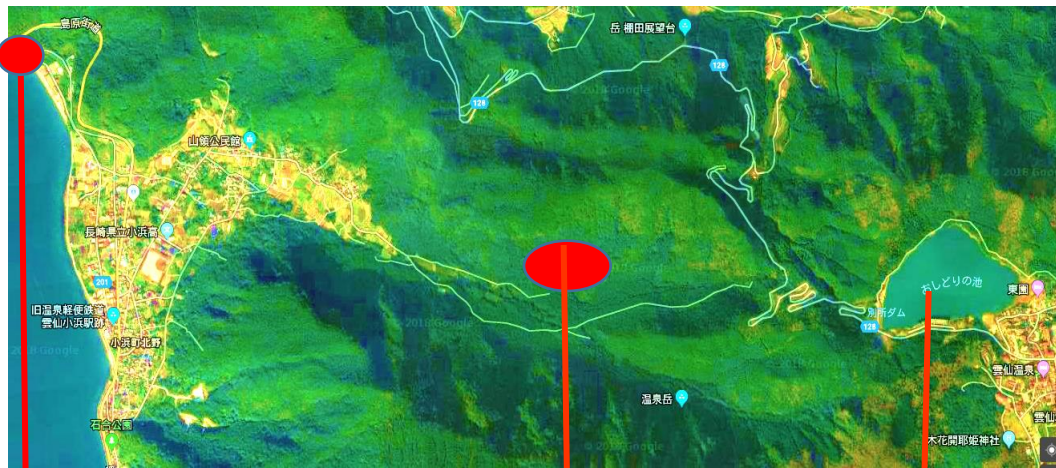
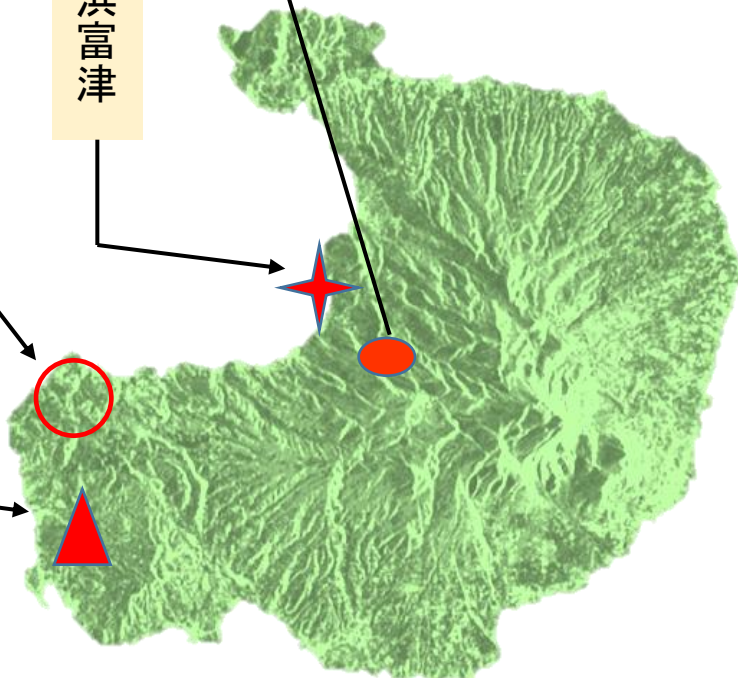
「津波」のロケ地小浜富津

パール・バック住居

小浜富津

南串山

ほかにわ共和国



映画のロケ

バックの住居

雲仙の別所ダム



バック女史と撮影風景



「津波」の出演者たち



自然災害の恐怖と映画「つなみ」



1991年普賢岳災害、小説『つなみ』のモデルは1922年千々石湾海底噴火である



2011年東日本災害、津波の発生原発の事故と放射能原発の是々非々

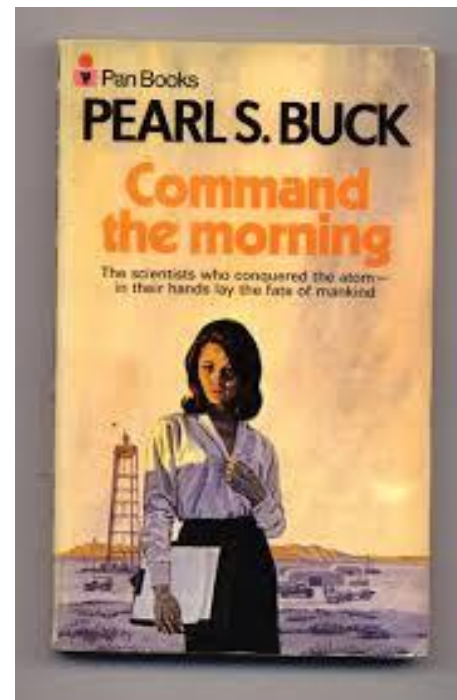


幻の映画「つなみ」

1948年『原著』刊行、1960年映画化、わが国では一般公開無し、真意は不明
2006年『再刊』され、再発見と再評価につながる。



1954年ビキニ環礁水爆実験



1957年原著、2007年訳本出版、
再発見・再評価の一冊

パール・バックは米ソの原爆実験に疑問を持っていた。しかも被爆地広島と長崎には特別な感情と知己を得ていた。広島谷本清牧師さんとは強い絆があった



1955年原爆乙女25名アメリカへ



パール・バックは、戦争孤児の養子縁組と原爆乙女の救済に財団を設立して広く呼びかけた。そして、日本の実情も知ることになる。この頃「津波」の映画は制作されたのだが……



1957年バック著『神の火を制御せよ』



パール・バックの津波が制作された社会の背景

1959年原子爆弾を批判する「神の火を制御せよ」を刊行していた。

原爆乙女の救済活動をペンの力と核の恐怖の目視で行っていた。

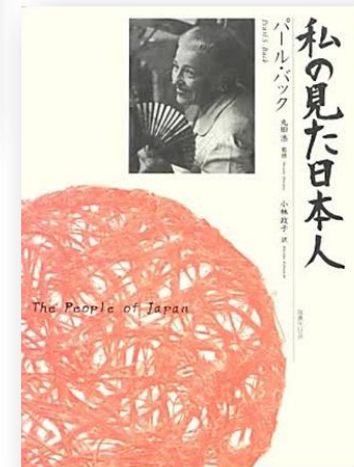
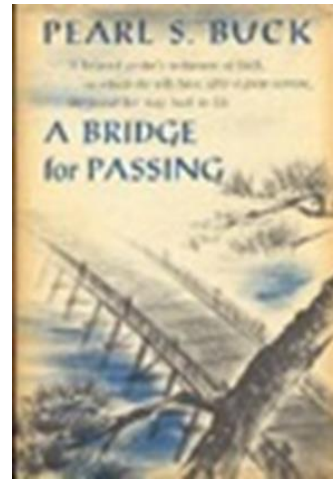
米ソは核開発に熱心で、水爆実験が頻繁に行われ、日本の被害者も出た

早川雪舟国際スターの出演は映画界の話題であった。映画が地味な内容

1960年は日米安保で国会周辺・学生運動などが頻繁で不穏であった。



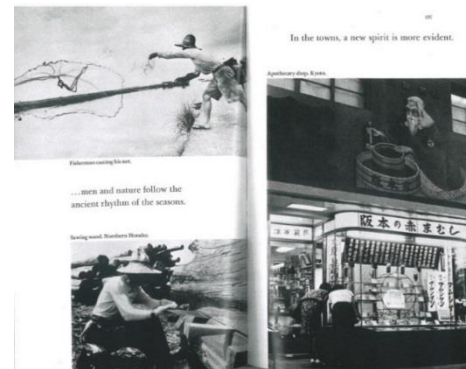
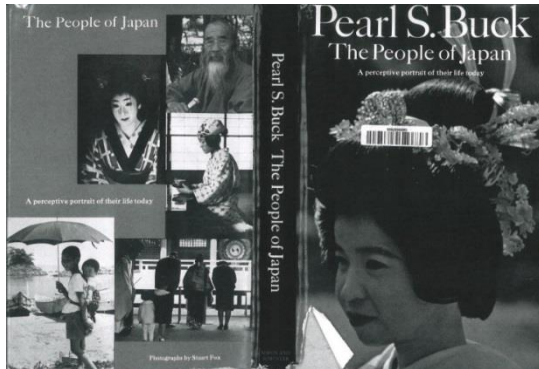
雲仙小浜に由縁のあるパール・バックの著書



小浜に住んで1948年『The Big Wave』原著, 1961年『A Bridge for Passing』は映画撮影の時にバックは悩みながら執筆。1966年『The People of Japan』原著, 訳本『私の見た日本人』2013年刊行した。



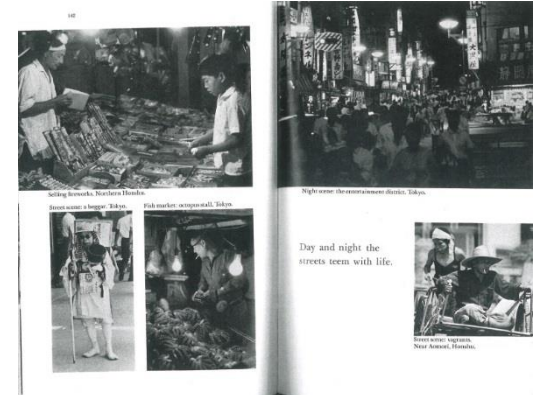
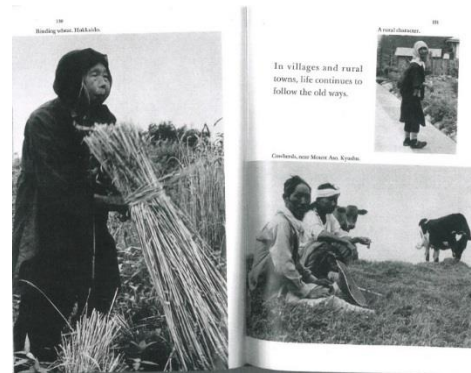
『私の見た日本人』の写真資料



原著『The People of Japan』1966年、パール・バックは腕利きのカメラマンと日産の車で全国を取材しているが、宗教などにも示唆に富む言葉が多くある。



『私の見た日本人』の写真資料



1966年、昭和41年当時は、日本はアメリカを見てそのものづくりに汗を書いた時期である。世界の人々は日本人を「猿真似」と揶揄しているが、実は日本人ほど努力する国民はいないと彼女は指摘している。



『私の見た日本人』小浜の印象



私の見た小浜を知らない人は、日本の大事な場所に行きそこなった人です。行楽地のように派手な場所ではありません。もう一度そこを訪ねて記憶を新たにしたいのです。と彼女はしさをしている。



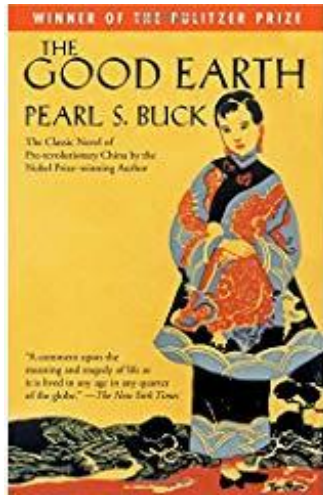
松坂清俊氏のパール・バック研究



写真中央の二枚は、パール・バックの養女ジャニスが所有していた写真で、本人はキャロルに抱かれています。右下の写真は「The Child Who Never Grew」のカバーになっていますので、30歳ごろの写真と思われます。そして、右上の写真が問題の一枚であるのです。説明は後ほど・・・



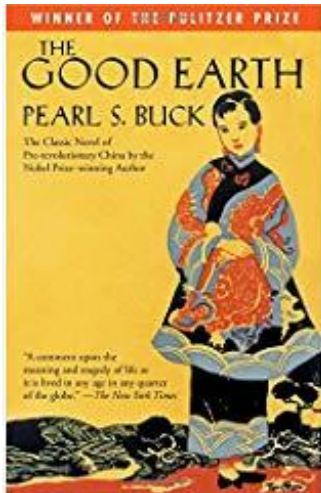
パール・バックの代表作『大地』三部作



絶望の中での1927年雲仙小浜でのキャロルとの生活。1929年6月、ヴァインランド施設のエドワード・ジョンソン校長と巡り合う、即刻入所する。1931年3月『大地』刊行される。



モデルはバックの一人娘キャロル



王龍の揺れ動くころ

いくつになってもものいわぬ子を産んだ働き者の第一夫人は死んだ
肩入れした第二夫人は彼女に冷酷で愛情はなかった。長男の妻も同じだった。
彼女と同じぐらいの第三夫人は優しかった。王龍はものいわぬ子が心配だった
梨華は、ものいわぬ子が亡くなった時「知的障害をもっていた長女は死をもって癒された、今や彼女は私たちみんなと同じです」と言った。



1927年春バックたちは雲仙小浜へ

THE DAISHIMABARA

大島原新聞

小浜鐵道開通の希望

本報は、小浜鐵道の開通を希望する。小浜鐵道の開通は、小浜の発展に大いに役立つ。小浜鐵道の開通は、小浜の発展に大いに役立つ。小浜鐵道の開通は、小浜の発展に大いに役立つ。

小浜鐵道株式會社
本社：長崎縣小浜町
電話：十八番

小浜鐵道株式會社
本社：長崎縣小浜町
電話：十八番

大島原新聞社
社址：大島原町
電話：四一四番

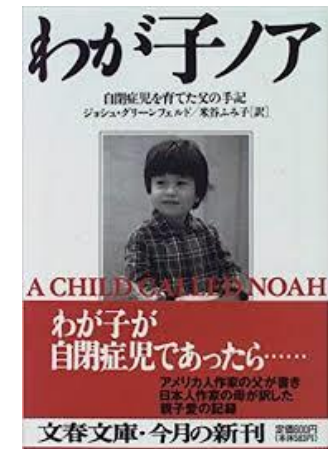
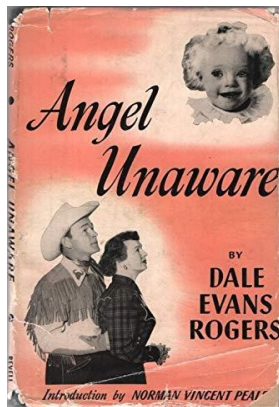
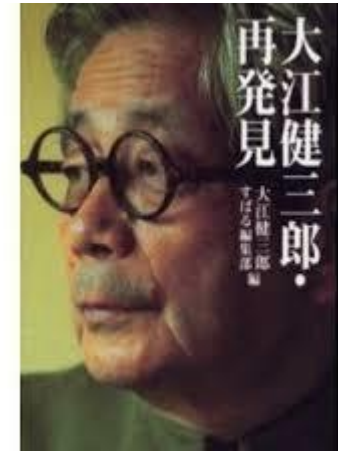
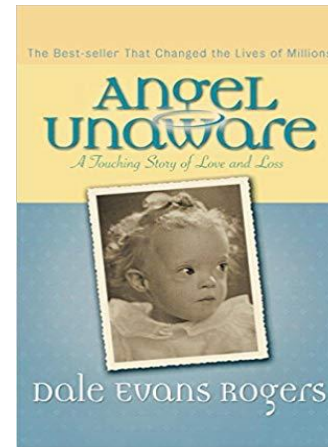
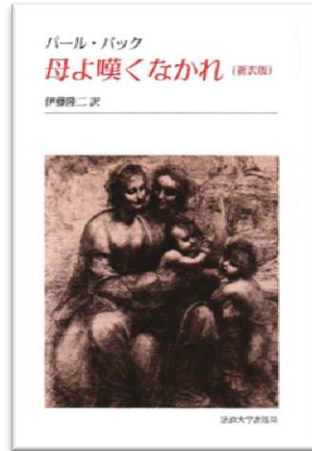
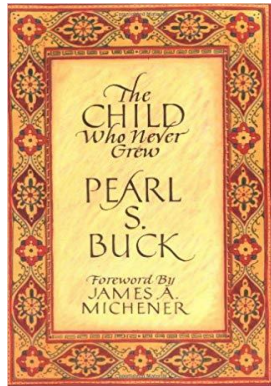
大島原新聞社
社址：大島原町
電話：四一四番



1927年昭和2年の地元新聞にはパールの動静は示されていないが、鉄道の開通を報じている。小学校を卒業すると上海に働きに行くのが多くいたと報じている。いわゆる「からゆきくんだり」である。



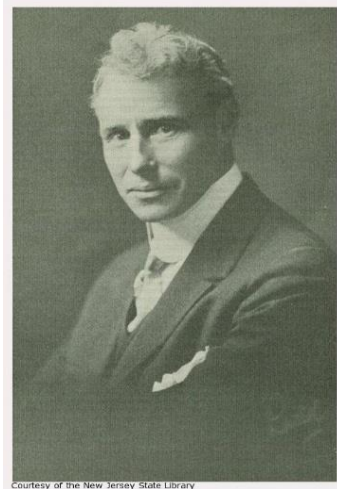
『母よ嘆くなかれ』の影響力



ハリウッドスターのダウン症育児の感動の書は全米に衝撃を与えた。この書は障害者の映画出演などに拍車をかけ、社会自立へ道を開いた。わが国では自閉症児を持つ米谷ふみ子(芥川賞受賞者)が立ち上がった。



母親バックがキャロルへ出した決断



パール・バックの揺れ動くところ

上海の街角で、アメリカ人に浴びせられた「**あの子ナッツよ**」という言葉
遊び友から、キャロルをお家につれて来ないでねと、**ママがいうの・・・**
ドイツ人の医者から、**いいですか・私は本当のことを言っているのです。**
魚売りのお婆さんはキャロルと通じていた**こころの大学校**卒業生だった。
最終的にバックは、**ジョンストン校長**にキャロルの幸福を託した。



母親バックとヴァインランドの由縁



Courtesy of the New Jersey State Library

ジョンストン校長



ヴァインランドの研究書 研究者ドル博士



松岡久子訳

パール・バックの不動のこころ

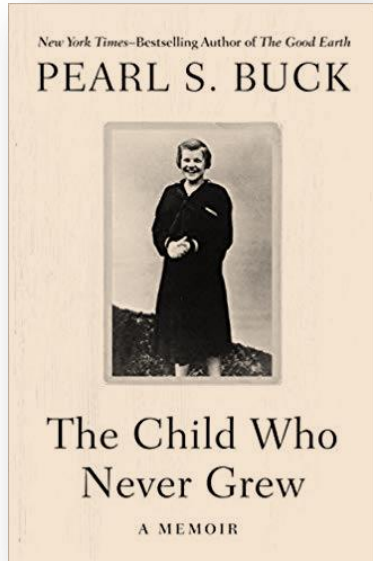
「まず幸福を、万事は幸福から」というのがそのモットーでした。

私はどこへ行っても、壁にも文房具にも一つのモットーが書かれてある。

校長自身の机の上にもかけられてありました。私がこの言葉をじっと見つめていると、それは単なる感傷ではなく、長い経験の賜物なのです。と校長

最終的にバックは、ヴァインランドの施設にキャロルの幸福を託した。

『母よ嘆くなかれ』の影響力



パール・バックの序文の掲載の本



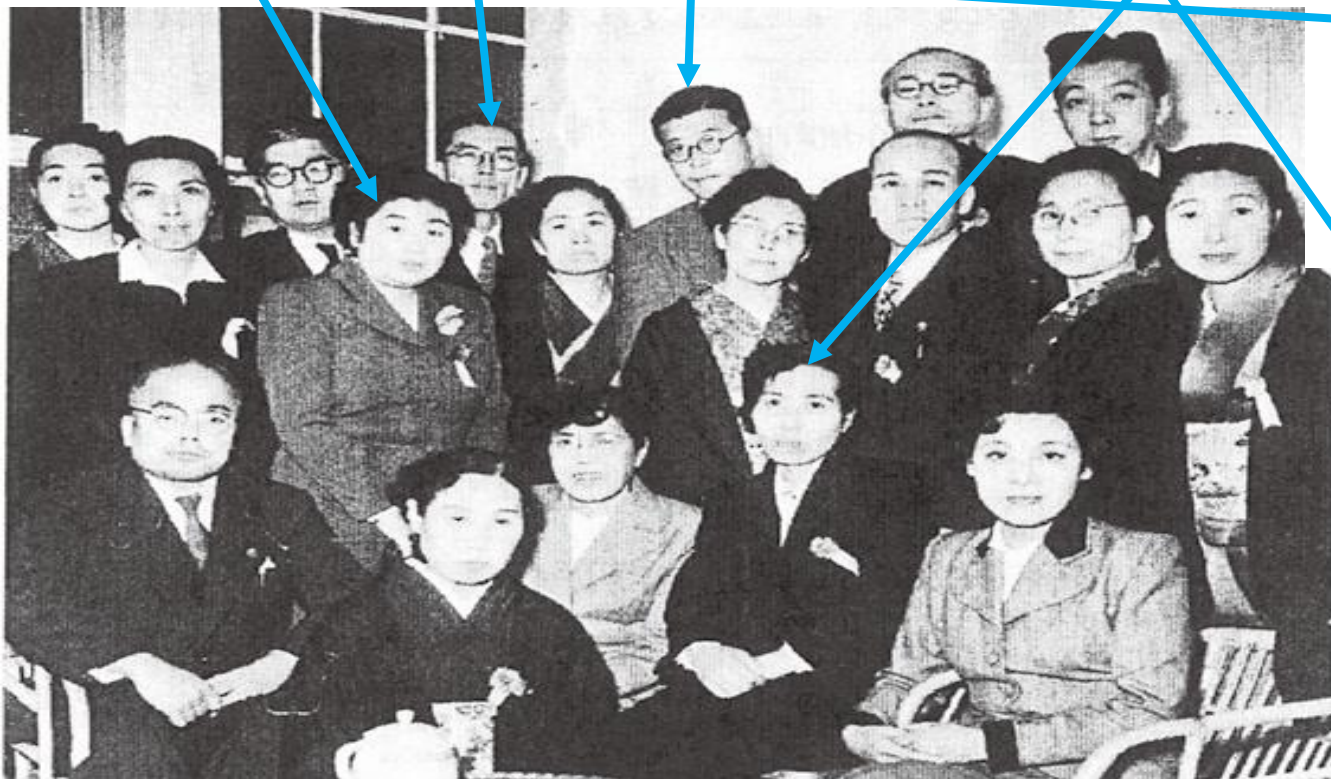
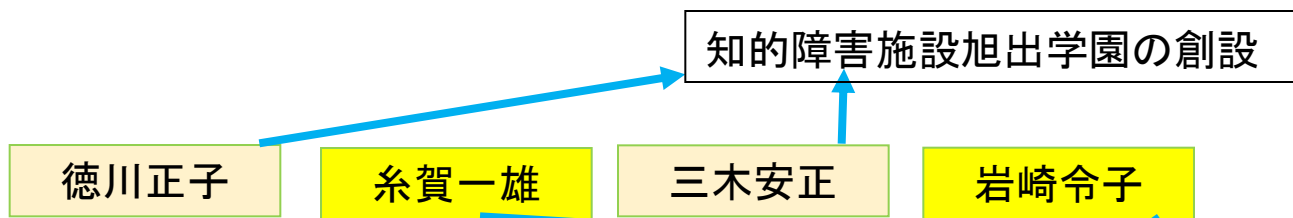
上;NHK厚生文化事業団表彰式
下;三木安正委員長式辞



『母よ嘆くなかれ』決して育たない子供、いくつになってもものいわぬ子供、バック女史はただ悲嘆にくれていただけだったのか、いや、希望が持てる子供であると信じる母親であった。



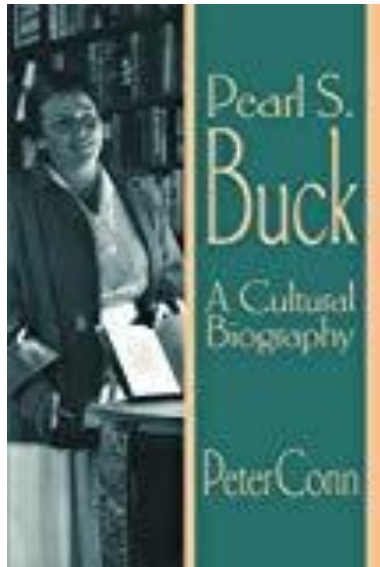
バックの「序文」の影響力とわが国の親の会



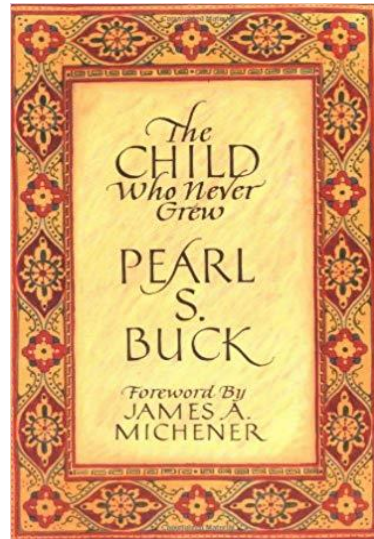
歴史的な写真は高知県の親の会の玲子さんの『著書』にありました



1972年夏のある日のバック女史



ピーター・コン原著



1992年再刊



2001年丸田浩訳

バック生誕100年祭で再刊された「CWNG」でキャロルの妹のジャスが明らかにしたパール・バックとキャロル70歳の時の施設訪問の実体は・・・



1973年2月のある日のバック女史



1812年-18703年



1999年明石書店



2014年ミネルバ

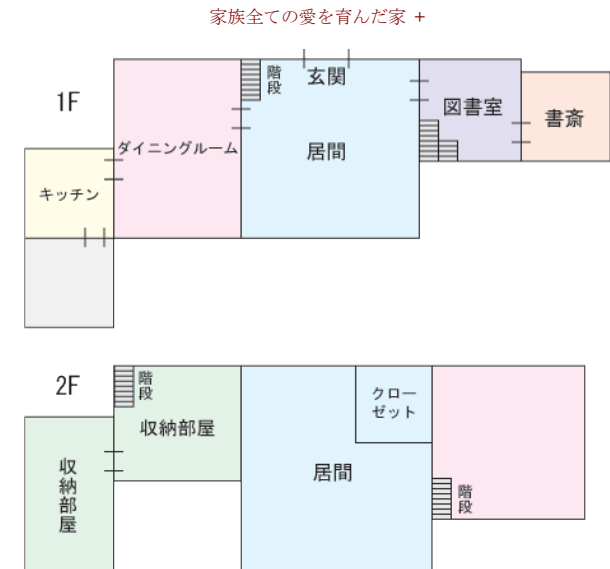
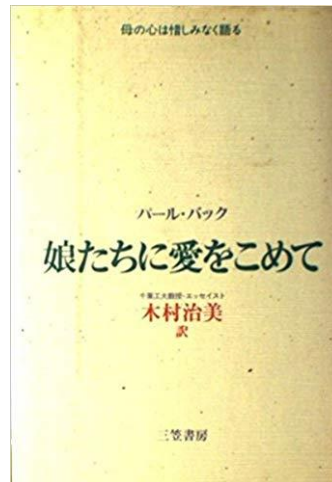


2002年岩波新書

障害学という研究において、パール・バックとディケンズの文豪のペンの力が改めて問われ、再発見と再評価になっている。『日本社会福祉の歴史』の中に新たな福祉の歴史を示唆しています。

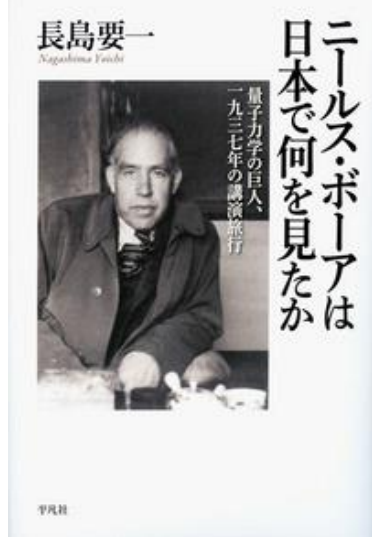


パール・バック再発見・評価の背景



パール・バックは2004年11月17日日本テレビ「こころの家」に放送された。
パール・バックが秘密にしていたキャロルの写真が公開された。
パール・バックがなぜ混血児・戦争孤児を養子にしたか明らかにされた。
パール・バックのわが家に関する認識が示され、評価された。
「家庭は大地です。そこに根を下ろし、そこから栄養をとっているのです」
パール・バックは娘たちに家族の絆の基本をプレゼントした。

バック女史の由縁のある雲仙と著名人たち



雲仙のホテル前で岩橋夫妻

ヘレン・ケラーは1938年夏に訪問し全国で公演活動をしている。ヘレン・ケラーは熊本を
経由して帰国の途についている。原子力科学者ニールス・ボーアも雲仙を訪問している
。彼は原子力の講演を東京帝国大学で連続7回の講義を行っている。



ヘレン・ケラーの「雲仙ホテル」の宿帳とスナップ



ヘレン・ケラー57歳

Unzen Hotel's Register Book

Y. ITOW, - - - Proprietor.

1937

Date and Time of Arrival	Nationality	Name in Full	No.	Address	Profession	Age	Where from	Room No.
年月日	国籍	氏名	部屋	住所	職業	年齢	来所地	客室
May 27 1st P.M.	American	Carl René Greenberg	1	Los Angeles - U.S.A.	Lawyer	49	Shanghai	1
May 30	American	Miss M. W. ...	4	Shanghai			Shanghai	4
May 30	American	Helene Keller	1	New York	Writer		Japan	1
	Dutch	Polly ...		New York	Business			
3rd June	American	Miss E. J. ...	2	Shanghai			Shanghai	2
"	"	Mabel ...	2	"			"	2
"	British	Miss S. ...	38	"		38	"	38
3rd June	British	Greene Graham	7	Shanghai			"	7
"	"	Mr. K. ...	7	"			"	7
4 "	American	Franklin S. ...	41	New York East Chicago, Ill.	Novel	57	Amoy	41
"	American	Margaret ...	42	Orin, Ill.	Novel	22	Orin	42
"	British	Mr. S. G. ...	11	London	Physician	37	London	11

コピーは雲仙お山の資料館所蔵

その時の宿帳、ヘレン・ケラーの自筆署名と下の署名は、秘書のポーリーの名前です。部屋は同じく1号室です。左の写真は、くつろいだ様子が判ります。逸話になりますが、露天風呂で大いにはしゃいだとも言われています。



パール・バックの長崎へのレクイエム



児童合唱団「多摩ファミリーシンガーズ」の演奏会が6月30日、関戸公民館ヴィータホールで盛大に開催された。春休みに行われた長崎への演奏旅行のDVDがお披露目された。(ホームページから)

いのりのまち

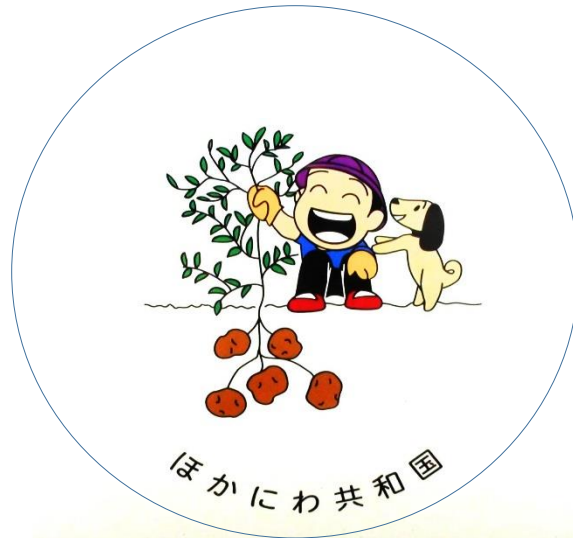
作詞しがとしき 作曲たまみゆき

歴史に残る あやまちの光り 戦いの怒りと悲しみ
碑(いしぶみ)は語る 浦上の丘に 人の世の終わりと 虚しさを
水を求め 家を求め さまよう人の群れ 死に絶えた 幼子に
焼けた敷石 咲く露草 あ・あ長崎 祈りのまち

忘れはしないあの夏の日差しを 時計は11時02分を指したまま
永遠に時を止めた そして瓦礫と消えたい祈りの館 思いはめぐる

新たに誓おう 二度とないように 平和の丘と大空に
許してはならない ノーモア長崎 語り継ごう 被爆の声を
希望を求め 愛を求め 生命続くかぎり
今 届け 世界に 平和の歌の とこしえに
あ・あ～長崎 祈りのまち
あ・あ～長崎 祈りのまち





ご清聴ありがとうございました

